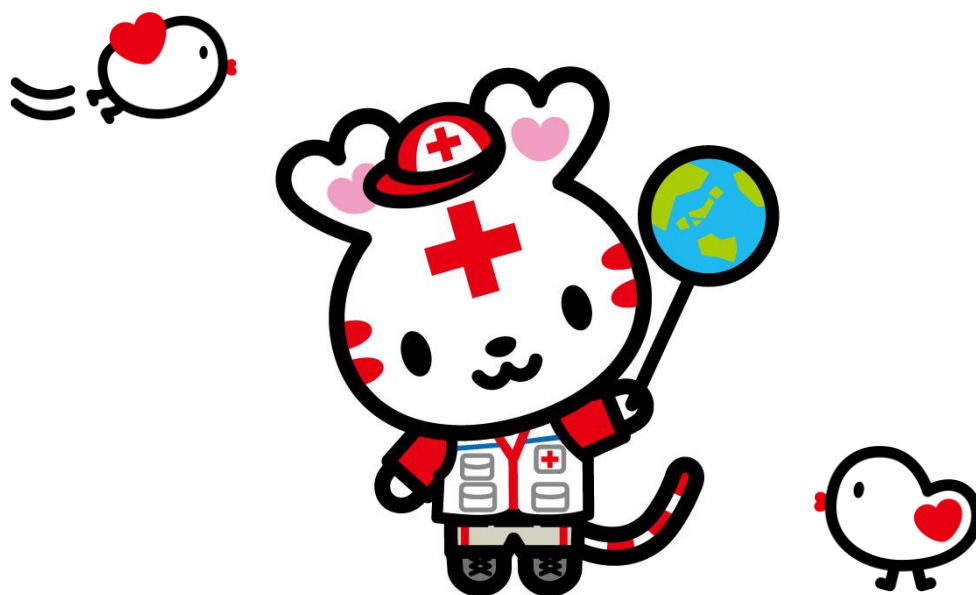


日本赤十字社
国際救援・開発協力国際要員になるための
研修の手引き



平成 31 年 2 月 25 日初版
令和 6 年 3 月 27 日第 7 版

目次

1) 派遣への道	…………… 3
2) 研修を受けてみる。はじめの一步	…………… 4
3) 国際要員として登録されるためには - IMPACT と、保健医療 ERU 研修	…………… 5
4) 派遣前にならず受講しましょう。-安全管理研修Ⅱ	…………… 6
5) 派遣に向けて	…………… 7
6) その他の研修	…………… 7
7) 役に立つ情報一覧	…………… 7

手引きの目的：

国際救援・開発協力要員（以下、「国際要員」）を目指す職員にとっても、国際要員を育成したい支部・施設にとっても、「国際要員になるためには何をすべきか?」、「どのようなプロセスで、いつ派遣されるのか?」様々な疑問があると思います。その答えとして、この手引きがお役に立てば幸いです。

1) 派遣への道

まず、派遣には 3 つの種類があります。下記に派遣種類と内容、派遣先の例をまとめています。

	派遣種類	内容	派遣先例
1	日本赤十字社の二国間事業	現地の赤十字社・赤新月社を支援して人道課題に共に取り組む二国間事業への派遣です。病院や診療所で医療活動を行なう事業をはじめ、水・衛生環境の改善や自然災害への防災能力を強化する開発協力、災害後の復興フェーズにおける支援など、現地のスタッフやボランティアと協同しながら行う活動です。	<ul style="list-style-type: none"> ・バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業 ・パレスチナ赤新月社医療支援事業 ・ルワンダ気候変動等レジリエンス強化事業
2	国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）の事業	<p>国際赤十字・赤新月社連盟からの要請を受け、連盟が調整し支援する事業に派遣しています。事業の内容は、緊急時と平時の活動に分けられます。</p> <p>■緊急時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応（Rapid Response：RR）要員 <p>大規模な自然災害や人的災害ではアセスメントや急性期対応のため、必要とされる専門家を派遣します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応ユニット（Emergency Response Unit：ERU） <p>現場のニーズに応じて派遣します。</p> <p>■平時</p> <p>各国赤十字社・赤新月社や青少年、ボランティアのキャパシティ向上、防災や保健医療などの活動を支援するために、連盟のジュネーブ本部や地域事務所、事業現場へ派遣しています。</p>	<p>■緊急時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウクライナ人道危機救援 RR 要員 ・バングラデシュ ERU 派遣（日赤リード） ・ハイチ ERU 派遣（フィンランド赤リード） <p>■平時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連盟アジア・大洋州地域事務所 ・連盟中東・北アフリカ地域事務所
3	赤十字国際委員会（ICRC）の事業	赤十字国際委員会が実施する紛争地域における事業への派遣です。紛争で傷ついた人びとを救うために、医療や公衆衛生のサービスを提供し、離散家族の支援や収容所訪問などの活動を行なっています。医療や公衆衛生分野では医療職全般、その他の分野では総合職や専門家が求められています。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICRC 南スーダン紛争犠牲者救援事業 ・ICRC パキスタン紛争犠牲者救援事業 ・ICRC ナイジェリア紛争犠牲者支援事業

また、これら事業のために日本赤十字社から派遣された国際要員の数は、2023 年度は 59（オンラインで遠隔での技術支援等を行うリモート派遣を含む）人でしたが、

派遣人数は、その年の災害などの発生状況などによって大きく変動します。たとえば、2017年度はバングラデシュの避難民支援の影響で、派遣人数が143人に上りました。なお、日本赤十字社で国際要員として登録されているのは489人（2024年1月現在）です。ただし、それぞれライフイベントもありますので、実際にすぐに派遣要請に応えられる人材はより少ないという現状を考えると「自分にもチャンスがある」とご理解いただけたと思います。

一方で、国際要員が所属する組織（支部・施設）の視点で考えることも大切です。例えば、病院は通常業務に従事する大事な職員を急遽海外へ派遣することになる場合、その職員が不在の間、他の職員や、患者さんへの負担も考慮する必要があります。国際要員個人が派遣を希望しても、容易に送り出せない現状もあります。

このような中で、国際要員になるために準備することはたくさんあります。例えば、医療従事者としてスキルを磨く。どのチームでも働けるようにコミュニケーション能力を高める。言葉に困らないように英語力を高める。こうしたことで、ご自身の国際要員としての価値を高めることに加え、組織内の理解を得るために、上司や同僚との関係を日頃から良好に保つことも大切です。自分で派遣の下地を作り出す、こうした努力は一見国際活動と関係ないように見えますが、深く関係しています。

2) 研修を受けてみる。はじめの一步 - eラーニングを受講しよう-

派遣されるためには、まず国際要員として登録される必要があります。国際要員とは、日本赤十字社本社によって、正式に国際要員として認定された方のことです。また、国際要員になるために定められた研修を受ける必要があります。

国際要員となる初めの一步として、国際赤十字・赤新月社連盟のeラーニングプラットフォームから、以下のeラーニングを受講・修了しましょう（下記表1を参照）。これらは英語でのオンライントレーニングで、受講にはパソコンとインターネット回線が必要ですが、受講料は無料です。

それぞれ何度でも聞き直しが可能で、セッション途中で退席しても、途中退席した個所から開始できますので、ご自身のペースで進められ、また何度でも繰り返し勉強できます。最後にテストを終えると、修了証が発行されます。

これらのトレーニングの修了は、国際要員登録に不可欠な研修である、保健医療ERU研修やIMPACT研修（下記「3）国際要員として登録されるためには」参照）の参加要件になっています。国際要員登録を希望する方には必須のトレーニングです。

・受講先 URL

<https://ifrc.csod.com/client/ifrc/default.aspx>

※連盟のeラーニングプラットフォームを利用するためには、アカウント登録が必要です。必要事項を記入してから始めましょう。

表1：【必須eラーニング一覧】

研修名	所要時間
WORC : World of Red Cross and Red Crescent	4時間30分
Stay Safe 2.0 Global Edition: Level 1-Fundamentals	4時間
Stay Safe 2.0 Global Edition: Level 2 - Personal and Volunteer Security in Emergencies	
Live the Code (Code of Conduct)	30分
Principles and Rules for Red Cross and Red Crescent Humanitarian Assistance	60分

101 Corruption prevention	1 時間 40 分
Child Protection at the IFRC	30 分
Saying NO to Sexual Misconduct	30 分
Targeted- An introduction to cybersecurity	30 分

英語が苦手な方へ：

「英語の勉強に苦勞している」という声があちこちから聞こえてきます。しかし、今でこそ英語を使って仕事をするベテランの国際要員さんも、多くの場合、たくさん勉強して英語を使えるようになりました。

勉強方法としてお勧めなのは、テスト対策だけでなく、できるだけ英語を使う状況に身を置くということも挙げられます。周りに英語話者がいなくても、昨今はオンライン英会話やスマホアプリを使ったものなども手軽に受講できます。とにかく英語で思考して、英語で表現してみる。もちろん、可能であれば英語話者の中にしばらく身を置いて、英語しか通じない時間を定期的に持つことも大切です。そうすることで、英語に対する恐怖心が消え、英語が日常の一部となります。

英語力が不十分なので研修内容がわからないのでは、せっかくの研修もあまり意味がありません。また、派遣先で命にかかわるような決断をしなければいけない時、または日々のコミュニケーションをとるためにも、英語は最低限身に着けておくべき必須項目といえます。苦手な意識を持たず、楽しく勉強を続けましょう。続けていれば、いつか必ず使えるようになります。

3) 国際要員として登録されるためには

-IMPACT と、保健医療 ERU 研修-

WORC と Stay Safe を受けた後は、日本赤十字社によって年に一度ずつ開催される国際救援・開発協力要員研修Ⅱ (International Mobilization and Preparation for Action、以下 IMPACT) 又は、保健医療 ERU 研修 (概要は下記表 2 参照) に参加しましょう。IMPACT は赤十字事業全般に派遣されるために必要な研修で、ERU 研修は地震など大規模災害時の、緊急救援への派遣に特化した研修です。

どちらかの研修に参加し、研修を通じて国際要員としての要件を満たしていると認められた方は、正式に要員として登録されます。登録は研修を主管する本社国際部企画課が行います。国際要員として登録されると、派遣に応募することができます。

表 2 【登録のために必要な研修の概要】

研修名	IMPACT	保健医療 ERU 研修
目的	海外の人道支援ミッションに従事する国際要員に必要なことを学ぶ	ERU ミッションに必要なことを学ぶ
形式	グループワーク、座学、オンライン学習など	グループワーク、座学、オンライン学習など
概要	赤十字の 7 原則、国際赤十字の役割と働き、災害対応、国際人道法、日赤国際要員としての役割、事業の組み立て方などを学ぶ	災害時の緊急救援としての ERU 設置から活動終了までの一連の流れを学ぶ (ERU 概論、資機材の取扱いなど)
対象	社会人経験 3 年以上の日本赤十字社の職員、または外部からの参加者、連盟や海外赤十字社の職員	日本赤十字社の職員、海外赤十字社の職員

受講期間	5日間 ※対面での研修に加え、eラーニングの修了も必要です。	6日間 ※対面での研修に加え、eラーニングの修了も必要です。
言語	英語	
開催地	東京都または神奈川県 ※対面開催出来ない場合はオンライン	兵庫県
開催時期	毎年1-2月ごろ	毎年10-11月ごろ ※病院 ERU 展開訓練を開催する年の開催はなし。
募集人数	24人程度	24人程度

これら研修には、所属上長からの許可を得てから、開催要項に沿った参加申し込みを行います。どの時期に開催されるのかは毎年少しずつ異なりますので、本社からの通知を注意して見てみましょう。通知は開催の3か月程前に全施設（文書收受の窓口となっているそれぞれの施設の各総務部（課））に送られ、本社は同時期に国際要員ウェブサイト*の「お知らせ」にも掲載します。国際要員ウェブサイトは、誰でも閲覧することが可能です。（下記「8）役に立つ情報一覧」を参照）

* 国際要員ウェブサイトは2021年4月に改訂しました。

[日本赤十字社 国際要員ウェブサイト \(jrc.or.jp\)](http://jrc.or.jp)

4) 派遣前に必ず受けましょう-安全管理研修Ⅱ

安全管理研修Ⅱ（概要は下記表3参照）は、派遣先での国際要員の身の安全の向上と管理を目的とした派遣前に必須の研修で、eラーニングで学んだStay Safe（安全管理研修Ⅰ）の内容をより深く、具体的にした3日間の研修です。これも所属上長に相談の上、応募しましょう。どの時期に開催されるのかは毎年少しずつ異なりますので、本社からの通知や国際要員ウェブサイトを注意して見てみましょう。研修開催の通知については、全施設あて、2～3か月前に送られます。

表3【安全管理研修Ⅱ概要】

研修名	安全管理研修Ⅱ
目的	国際要員が派遣先において自身の安全を確保できるよう、安全対策や危機管理の基礎的な知識、能力を身に付け、安全管理意識と実践力の向上を図ること
形式	グループワーク、座学
概要	国際人道支援を取り巻く安全の状況、安全管理の7つの柱、要員個人の安全、重大事案のリスク軽減と対処など
対象	保健医療 ERU 研修やIMPACTを受講した方または受講を予定している方など
受講期間	3日間
言語	日本語（動画資料など一部英語）
開催地	東京都 日本赤十字社本社他
開催時期	毎年11月、2月ごろ。年に2回実施（原則IMPACT、保健 ERU 研修の翌月予定）
募集人数	24人程度

5) 派遣に向けて

研修が終わると、いよいよ国際要員となります。国際要員は、日本赤十字社国際救援・開発協力要員データベースに登録され（国際要員IDが本社から付与されます）、派遣をいつでも受けられる状態になります。派遣の機会は、国際要員ウェブサイト等にアップデートされているので、こまめに情報をチェックしましょう。（応募等に関する問合せの連絡先は、その都度募集要項に記載されています。）また、国際要員になると同時に登録される Microsoft Teams の「日赤国際要員」チームには、『派遣決定前の国際要員のためのプチガイド～渡航の準備と安全対策のヒント～』など、派遣準備の参考資料もありますので、ご活用ください。

但し、国際要員になるために必要なことをすべて終えても、所属先施設や家庭の都合で長い間派遣されない要員もいます。状況は異なりますが、派遣についての悩みがあるときは、身近に派遣経験者がいる場合はその方に相談してみましょ。

また、そうした経験者が周りにいない場合は、国際要員ウェブサイトの「お知らせ」から経験者の話を聞ける機会を探してみましょ。特に国際医療救援拠点病院（以下、拠点病院）と呼ばれる以下5つの病院（日本赤十字社医療センター、日赤愛知医療センター名古屋第二病院、大阪赤十字病院、日本赤十字社和歌山医療センター、熊本赤十字病院）では、将来派遣を目指す職員を対象に、オープンの研修会や勉強会を実施しています。オンライン開催が増えていますので、ぜひ積極的に活用してみてください。また、本社の国際部企画課・研修係へご相談いただくことも可能です。

なお、昨今ローカライゼーション*の加速等により、国際要員に求められるスキルが変化してきています。それらのスキルは、国際活動に関連する研修への参加だけではなく、日常業務を通して高められるものや自己学習が必要なもの、実際の派遣を通して会得できるものなどがあります。連盟では緊急救援の現場のニーズにこたえるため、[Core Competency Framework for Surge Personnel](#)を作成し、採用、育成、活動管理、活動評価に使用しています。どのような資質が求められているか、目を通してみてください。

*ローカライゼーション：可能な限り地元の力を活用し、必要に応じて国際支援を行う。

6) その他の研修

一回目の派遣が終わってから、二回目・三回目の派遣を目指す方にはその他の研修を通じてご自身の能力を高める機会があります。日本赤十字社では、上述の拠点病院と協力して、様々な専門分野研修を行っています。

こうした研修へ参加することによって、自分の専門分野を磨き、次の派遣に備え、仲間と最新情報をアップデートできます。ご自身の専門に磨きをかけることで、能力も上がり、その分野に特化した派遣の任務も徐々に任されるようになり、連盟や ICRC からの任務にも応えられるようになります。

また、国外での研修には、連盟や ICRC が主催する研修もあり、そうした場所に参加するころになると、現地で共に働いた他国の赤十字・赤新月社の職員や、ICRC、連盟の職員と、より詳しく包括的な内容の研修を受けられるとともに、次の派遣に向けてより具体的なネットワークの構築の機会も持つことができます。

7) 役に立つ情報一覧

➤ 国際要員ウェブサイト

<https://www.jrc.or.jp/international-delegates/>

- 日本赤十字社ウェブサイト（国際活動について）
<https://www.jrc.or.jp/international/>

- 国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）ウェブサイト
IFRC.ORG <https://media.ifrc.org/ifrc/>
Fed Net <https://fednet.ifrc.org/en/home/>
Learning Platform <https://ifrc.csod.com/client/ifrc/default.aspx>

- 赤十字国際委員会（ICRC）ウェブサイト
ICRC.ORG <https://www.icrc.org/>
Resource centre <https://www.icrc.org/en/resource-centre>

- 身近な拠点病院 国際医療救援部へのお問合せ先（直通電話/e-mail）
拠点病院について（国際要員ウェブサイト）
<https://www.jrc.or.jp/international-delegates/location/>
 - 1) 日本赤十字社医療センター 03-3400-0232
e-mail imrd@med.jrc.or.jp
 - 2) 日赤愛知医療センター名古屋第二病院 052-832-5467
e-mail kokusaikyuen@nagoya2.jrc.or.jp
 - 3) 大阪赤十字病院 06-6774-5030
e-mail imr@osaka-med.jrc.or.jp
 - 4) 日本赤十字社和歌山医療センター 073-422-4171
e-mail imrd@wakayama-med.jrc.or.jp
 - 5) 熊本赤十字病院 096-384-2111
e-mail kokusaiq@kumamoto-med.jrc.or.jp

- 日本赤十字社本社国際部 企画課研修係へのお問合せ先
直通電話 03-3437-7090（月-金 9:00～17:30） e-mail kokusai-hr@jrc.or.jp